

第6回（平成25年1月期）番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成25年1月30日（水）17:00～18:00

2. 開催場所 会議室

3. 委員の出席状況

委員総数 8名

出席委員 5名 西修・正岡健二・木辻清子・山本幸男・宮川清

欠席委員 3名 萩尾利雄・為岡務・平川愛恵

放送事業者側出席者 金千秋・平野由美子

4. 議題

番組審議

第6回審議番組：「18年間の復興で見えてきたもの 大切な人と人のつながり」
(31分12秒)

1月17日（木）18:29～19:00 放送

ゲスト：室崎益輝さん

（関西学院大学総合政策学部教授、関西学院大学災害復興制度研究所所長）

ディレクター・ミキサー・聞き手：金千秋（FMわいわい）

阪神・淡路大震災から18年目の2013年1月17日（木）は、12:00～22:00の間、特別番組「人と人は繋がっている～知恵と勇気を寄せ集め、まちづくりへの思いはかなう～」を放送した。

JR新長田駅前広場で毎年行われている追悼行事「1.17KOBEに灯りをinながた」会場に設置した特設ブースからの実況生中継放であったため、音響等に多少の影響もあった。室崎さんは阪神・淡路大震災後からずっと社会的課題解決のための提案などを続けて来られている方で、そのご経験に基づいたお話をお伺いした内容の番組である。

5. 議事の概要

番組の基本コンセプトの説明後、審議を行う。

6. 審議内容

6-1. 欠席者の審議紹介

【平川愛恵委員】

- ・ 屋外での放送であるため周囲の騒がしさや機器との関連から番組が聞きづらいとの事前の連絡があり、確かに前半マイクのハウリングのような音もしたが、話し手の声が全く聞こえないわけではなく、この行事を知っている者としては、先生のゆっくりとした優しい声は行事進行の臨場感とともに聞くことができた。
- ・ 震災について、「ボランティア」や「絆」から「うつくしい」イメージではなく、震災(天災)に遭った時の支援を、現実をみつめ、向き合い、「制度」としてきちんと整えることについて尽力されていること、人々の生きることへの努力、希望への光などの小さな集まりが繋がって「市民社会」が本当に力をつけてきたと語っておられた。
- ・ 想いが大切であり、その想いを実現させるために制度(カタチ)を創るということについて、つい声高になっしまいそうなことを、丁寧な口調でゆっくり話されていて、しっかり聞くことができた。
- ・ 大学関係者とは思えない現場主義の方のお考えに思うところは多々あり、私自身、大学関係者として個人的に共感と深い感銘を受けた。今年で退官されるとのことだが、これまでに講演等でお話を聞く機会もなく過ごしてきたので、もったいないことをしたと反省している。

6-2. 出席者の審議

【山本幸男委員】

- ・ 番組冒頭に警報のような音がしていて、屋外での実況生放送ならではのハプニングと理解しているが、改善の努力は必要。
- ・ 室崎さんの話はとても聞きやすく良かった。30分間ずっとしゃべっていたが「えっと～」や「あう」などのない素晴らしい話し方で周囲の雑音があるところでも淡々としゃべっているのはさすがで何も言うことはない。
- ・ 内容に関してはなるほどと思いつながら聞いたが、仕事をしながら聞き流していたのであまり印象には残っていない。先生の講義を聞いているようであった。

【木辻清子委員】

- ・ しっかりした声で聞きやすかった。
- ・ 阪神・淡路大震災の時にはなかった制度ができ東日本大震災の被災地に活かされているとか、市民が行政に意見が言えるようになったなど、わかりやすかったので納得しながら聞いた。

【宮川清委員】

- ・ 番組として充実していた。
- ・ 騒音があり始めは聞きにくかったがすぐにクリアになった。
- ・ 場面場面を納得しながら聞くことができ、いろいろ考えさせられる部分があった。
- ・ 災害に限らず介護問題等を報道するメディア側は、それらの光の部分や美しいお話をすることがやたら多いような気がするが、それだけではなくもっと社会的な番組作りをしなければならないというのは、FM わいわいがベースにしている部分ではないか。

【西修委員長】

- ・ 生放送をするには確かに周りが騒がしかったが、現場を知っている者としては、実況中継がこんなにクリアに聞こえるのかと、思ったより聞きやすかった。
- ・ マイクの指向性の問題やミキサーをしながらしゃべっていたせいもあつただろうが、金さんの声が遠くなったり、小さくなったりするのが気になった。
- ・ 室崎さんはしゃべり慣れている方であるし、途切れずに30分話すのは苦にならないと思われるが、番組として聞くと30分間話を聞き続けるのはしんどかった。
- ・ 「いい話だったんだけどどんな内容だったかを覚えていない」というところが残念であった。

【正岡健二委員】

- ・ 内容はとても興味深く、3月11日に東日本大震災から2年目を迎えるにあたりタイムリーなものであった。福島のことを自分のことと思って考えていらっしゃる方である。
- ・ 室崎さんはマイクの前でずっと同じポジション、顔の位置で話すことに慣れている方。
- ・ 30分の尺で話す時にストーリーや構成などかなり熟慮なさるタイプであるし、他者が入りこむ隙のない話し方をされる。内面は激しい方だが話し方は優しい。
- ・ 1995年からの18間にご自身の考え方が変わってきていると感じる。
- ・ 先生は生活者の側に立つての目線で、これから先のメッセージをくれた。まちのリーダーが持つべき話として受け止めて聞いた。30分の講義として聞いた。

【放送事業者側出席者：金千秋】

- ・ 毎年1月17日は追悼行事会場から12時から22時まで放送をしている。
- ・ 曜日に関わらず、その当日の生放送の番組は会場から放送し、普段番組だけにしか来られないスタッフにも行事の雰囲気を実感してもらいたいと思っている。また、かつての番組スタッフの中にはこの日に顔を出してくれる人もいる。
- ・ 屋外でする生放送ならではのハプニングもたくさんある。手を振りに来る人、何をしているのか話かけてくる人などに説明もしながら番組を進めることもしばしばである。
- ・ 毎年特別番組としてのテーマを決めている。神戸のみならず東日本大震災の被災地在住の方

や臨時災害 FM 局と電話やスカイプで繋ぐ等の試みもある。

- 10 時間の長い番組なのでミキサー等担当者のシフトを組んでいたが、この 18 : 30 ~ 19 : 00 の間はディレクター、ミキサー、聞き手を一手に引き受けてしまったので、ミキシング中などにマイクから遠ざかってしまうこともあり、今後は短時間の番組設定でも複数のスタッフでやらなければならないと実感した。
- 「1.17」「3.11」以後の社会についてどうしていくべきかを考えている人、制度設計等についてきちんとものを言える人として室崎さんにゲストにお越しいただいた。
- 30 分番組なのでトーク中に 1 曲を挟む構成を考えていたが、お話を遮るタイミングをうかがえず、また途中で切るには惜しい内容だと判断しそのままきっちりとしゃべってもらった。
- 素晴らしいお話をしていただいた。参考資料として臨時災害 FM 局にもお送りし、被災地にお住まいの方や避難している方などたくさんの人たちに聞いていただきたいと思っている。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して採った措置及びその年月日

- 担当者に伝える予定（平成 25 年 2 月中）

8. 審議機関の答申または意見を公表した場合における公表内容、方法、年月日

- 公表内容…議事の内容
- 公表方法…自社放送（平成 25 年 2 月 2 日 12 : 30 ~ 12 : 45 の番組内で放送）
事務所に議事録の備置き（平成 25 年 2 月 10 日）
ホームページに掲載 <http://www.tcc117.org/fmyy/index.php?cl=13-98>

9. その他参考事項

特になし

以上